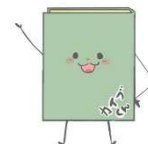


長野市公文書館便り

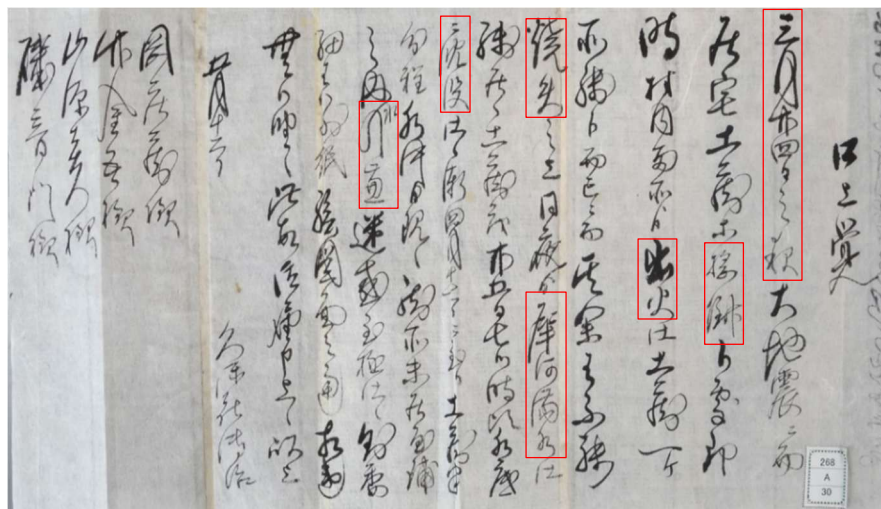


●発行日：令和8年（2026年）4月22日 ●発行：長野市公文書館

©NaganoCityArchives

資料紹介 善光寺地震を今に伝える「松代藩士の書状」

当館が所蔵する文書に「松代藩士の書状」があります。これは約260点に及ぶ松代藩士関係の文書群です。その多くは書状（手紙）です。この文書群を宛名別に分類してみると、新町村（現長野市信州新町）に居を構えた久保家に関係するものが65点ありました。



写真はその久保家に関わる文書で、弘化4年(1847)3月24日（以下全て旧暦）夜に発生した善光寺地震直後から同年5月までの新町村での被害状況について、久保喜伝治が5月12日付で松代藩郡奉行4名宛に提出した報告書の控えです。

文書に書かれた文字を見ると、「三月二十四日之夜」「揺倒」「出火」「焼失」「犀川満水」「沈没」「水引兼」等が読み取れます。こうしたことが新町村で地震後に連続して発生したことがわかります。新町村では地震の強い揺れによって多くの居宅や土蔵が倒壊します。

その直後に村内の両所（2カ所）より火災が発生します。この火災により喜伝治宅では土蔵を残し、他はすべて焼失してしまいます。その残っていた土蔵も、地震直後に起きた虚空蔵山（岩倉山）の崩落によりせき止められた犀川の水が上流の喜伝治宅まで満ちてきて、翌日の七ツ時（16時頃）には水没してしまいました。当時の絵図を見ると、この時できた天然ダムは新町村より上流の生坂村（現東筑摩郡生坂村）辺りまで広がっています。

同年4月13日になって、ようやく犀川をせき止めていた自然堤防が決壊し、村内の水がはけはじめます。4日後の17日になって、水没していた土蔵が半分程度水中より顔を見せます。喜伝治は、報告書の最後に「然るところ、未だ居屋敷の水引き兼ね迷惑至極」と記しています。これは、村を襲った水が一ヵ月後の5月になっても十分に引かず困っている様子を示しています。思うように排水が進まなかった水はいつはけたのでしょうか。なお、善光寺地震のために延期となっていた8代松代藩主真田幸貫の新町村への視察来村が、2年後の嘉永2年(1849)にようやく実現しています。

この報告書で注目すべきは、新町村での善光寺地震の被害状況についてばかりでなく、宛名にもあります。通常、名主等村役人作成の地震被害に関する報告書は代官宛です。しかし、喜伝治の報告書はその上官である山寺源太夫（山寺常山）他の郡奉行宛であり、しかも宛名の苗字を簡略化（「山 源太夫」等）しています。このことから久保家は新町村において村役人とは別格の地位にあったことがわかります。

当館所蔵の久保家由緒書によると、久保家は北陸の畠山氏の出で、直江氏（上杉氏家臣）の家臣を経て、天正12年(1584)頃に民間（百姓カ）となり上条村（現長野市信州新町）に住み着いています。享保11年(1726)の同家文書には、久保源太夫が殿様に謁見できるよう松代藩に願い出たことが記されています。さらに、元文3年(1738)には同人が松代藩から給人格（殿様に謁見できる武士）を仰せつかったことを示す文書もあります。久保家の家格をうかがわせる文書が他にもいくつかあり、久保家関係の文書は武士と百姓に関する研究に役立つかもしれません。

久保家関係の文書以外に「松代藩士の書状」には、佐久間象山とともに「松代三山」と称された山寺常山（山寺源太夫）宛書状20点や松代藩内で起きた事件に関わる取調書、戊辰戦争関係文書等あり、松代藩政を調べるうえで役立ちそうな資料が多数あります。

令和 8 年度 行ってみよう公文書館講座

第 1 回 7 月 26 日 (日) 14:00~15:30 「公文書館ってどんなところ？」

(定員 10 人)

公文書館の役割や図書館・博物館との違いなどの説明。バックヤード見学、資料探し体験。

昨年度実施した内容と同じですので、新たな受講者を募集します。スリッパ(上履き)を持参下さい。

第 2 回 8 月 30 日 (日) 14:00~15:30 「千曲川の治水と開発に関わった人々」

(定員 20 人)

日本一長い“千曲川”は、流域の人々に恵みと洪水の脅威を与えてきました。流域の人々は千曲川の治水と開発に力を入れ、共に生きてきました。その治水と開発にかかわった人々の姿を紹介します。

第 3 回 9 月 27 日 (日) 14:00~15:30 「古文書こぼれ話Ⅱ」

(定員 10 人)

江戸時代末期、松代藩奥女中一行が武水別神社参詣で起こした驚きの失態について記した目付の報告書を読み解きます。果たして報告書に書かれたことは事実か、関連する古文書等の資料を通して参加者の皆さんと検証します。

第 4 回 10 月 18 日 (日) 14:00~15:30 「長野市の移り変わり」

(定員 10 人)

長野村→長野町→長野市に拡大成長していく過程を、絵図や写真をもとに中央通りとの関係から考えます

場所：長野市公文書館(受付 026-224-0701)

対象：小学校高学年以上の大人の方(要予約)

受付：5 月 11 日(月)午前 9 時から電話で受付開始。複数の回へ申し込みも可。定員に達し次第終了。

日々是文書～スタッフ通信～

【新たな公開資料】(令和 8 年 2 月末現在)

「北村武夫家文書」363 点 「松本一男家文書」43 点

「内山洋道家文書」491 点 「篠原昌幸家文書」910 点

【活動記録】

12/16 南長池長田家資料調査

12/19 信州新町公民館見学来館

1/16 長田善次文書搬入

1/23 東条小学校資料調査

1/28 中条中学校資料搬入

1/29 第 3 回文献史料保存活用講習会参加

2/1 公文書館講座 4 「運動会のなぞ」

2/5 国立公文書館アーカイブズ研修事例報告

2/10~2/16 更北公民館出前展示・説明会「長野市公文書館収蔵資料から見る更北地区一更北村の発足一」

2/15 若穂郷土史研究会にて報告

2/20 轟軒治家文書搬入

3/11~3/24 パネル展(長野市役所にて)

3/13 『市誌研究ながの』第 33 号発刊

3/18・19 長野市役所非現用文書確認

*南部小学校・吉田小学校・下水鉤小学校にて出前授業(1~3 月)

【お詫びと訂正】長野市公文書館便り 62 号「日々是文書」11/13 の記載施設名に誤りがありました。正しくは、「豊野防災交流センター」でした。関係者の皆様にご迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。

『市誌研究ながの』第 33 号発刊！

頒布価格 2,000 円(消費税込み)。

お求めは公文書館で。郵送でもご購入いただけます。(送料別途いただきます。電話でお問い合わせください。)



長野市公文書館

所在地 〒380-0928 長野市若里六丁目6-2 長野市若里分室内

電話 026-224-0701 F A X 026-224-0702

HomePage <https://www.city.nagano.nagano.jp/kobunsho/index.html>

又は **長野市公文書館** で検索

E-mail kobun@city.nagano.lg.jp

開館時間 午前 9 時から午後 5 時(閲覧申込みは午後 4 時 30 分まで)

休館日 土曜日・国民の祝日に関する法律に規定する休日

年末年始(12月29日~1月3日)

こんなときにはご相談ください。

- ・古い土蔵などを取り壊すので、所蔵資料を寄贈・寄託したい。
- ・所蔵資料の保存・活用を図り、後世に伝えたい。